

CIMC による 5520 8540 WLC へのコンソールアクセス

目次

[概要](#)

[背景説明](#)

[前提条件](#)

[使用するコンポーネント](#)

[設定](#)

[設定](#)

概要

この資料は Cisco Integrated Management Controller でコンソールアクセスのためのコンフィギュレーションのステップを記述したものです (CIMC)。

背景説明

ワイヤレス LAN コントローラ モデル AIR-CT5520-K9 および AIR-CT8540-K9 はそれぞれ基づいた on Cisco UCS サーバ C シリーズ、C220 および C240 です。従ってそれにそれらのためのワイヤレス LAN コントローラ (WLCs) にリモートアクセスされる電源、メモリ、ディスク、ファン、温度およびコンソールアクセスのようなモニタ低レベル物理的な部品が編集すべき CIMC ユーティリティあります。

現在、コンソールアクセスのためにあるオプションは vKVM で、直接使用するためにキーボードおよびモニタのような周辺装置、および RJ45 ポートのまたはコンソールサーバによる使用を VGA ポートに接続します。

- vKVM コンソールおよび VGA に差し込まれる外部モニタは示します「Stage2 をロードする Cisco ブート・ローダ...」を

これは WLC がこれをサポートしないので、示します [Cisco 5520 および 8540 ワイヤレスコントローラトラブルシューティングガイド](#)を期待されます

- RJ45 ポートは WLC に物理アクセスをアクセスできない場合、実行可能なソリューション常にはないです。
- コンソールサーバはまた帯域アクセスから遠隔のためのオプションである場合もあります。

RJ45 コンソールポートにアクセスできないし、コンソールサーバがない場合、これはあなたのためです。

前提条件

使用するコンポーネント

このドキュメントの情報は、特定のラボ環境にあるデバイスに基づいて作成されたものです。こ

のドキュメントで使用するすべてのデバイスは、クリアな (デフォルト) 設定で作業を開始しています。 ネットワークが稼働中の場合は、コマンドが及ぼす潜在的な影響を十分に理解しておく必要があります。

- AIR-CT5520-K9、しかし AIR-CT8540-K9 は MSE のような他のどの UCS-C アプライアンスと共にまた可能、CMX です
- PuTTY のような SSH クライアントアプリケーション

- パスワードの回復 (「リセット システム」 の代わりにソフト リロードに 「再始動」 コマンドを使用して下さい)
- コマンドの使用 コンソールによってだけ許可する。

注: LAN 上のシリアルのための制限。 SOL を使用するために、サーバコンソールは次の設定がなければなりません:

- フロー制御なし
- SOL (9600 ビット/秒) のために設定されるとボーレート同じ
- VT-199 ターミナル タイプ

設定

設定

1. CLI による WLC の設定 CIMC

```
(Cisco Controller) >imm address 10.0.0.10 255.255.255.0 10.0.0.1
(Cisco Controller) >imm username admin password Cisco123 Cisco123
(Cisco Controller) >imm summary
```

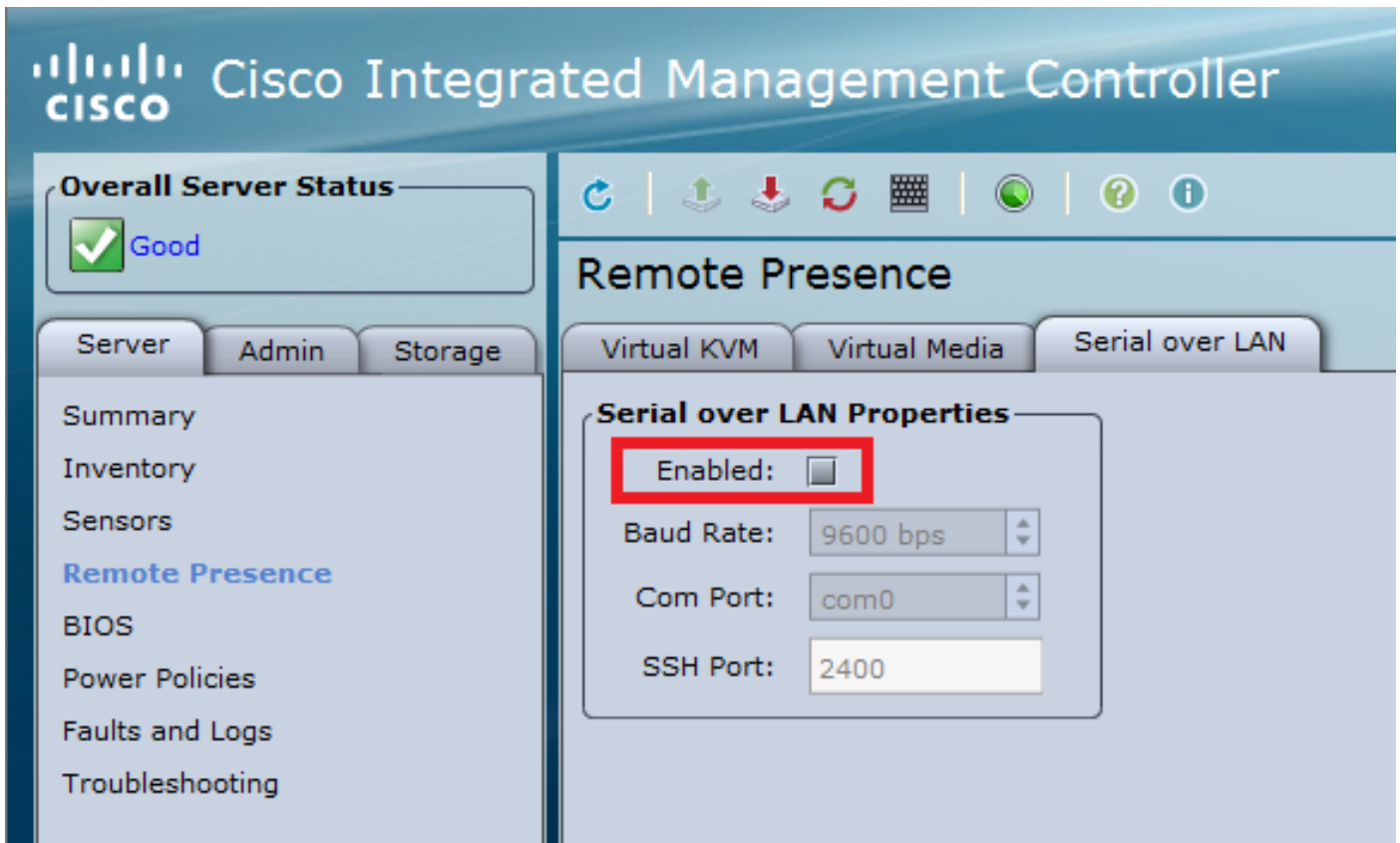
This will take some time...

```
User ID..... admin
DHCP..... Disabled
IP Address..... 10.0.0.10
Subnet Mask..... 255.255.255.0
Gateway..... 10.0.0.1
```

[UCS Cシリーズ サーバのための CIMC を設定するためにこの技術情報およびこれを/ビュー CIMC IP ブートアップの間にコンソールからの設定するためにチェックして下さい](#)

2. WLC に 「有効になる LAN 上のシリアル」 があるかどうか確認して下さい

- サーバの下の GUI によるログインへの CIMC、> リモート存在 > LAN 上のシリアル



- この確認はまた WLC の CLI ですることができます

```
>show imm chassis sol-info
```

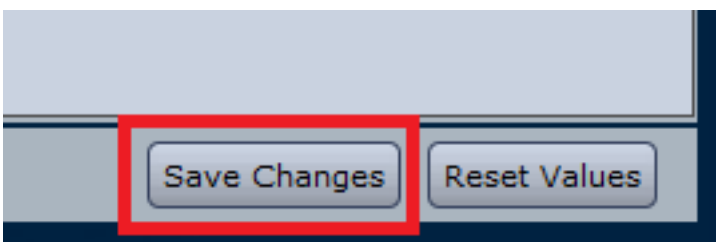
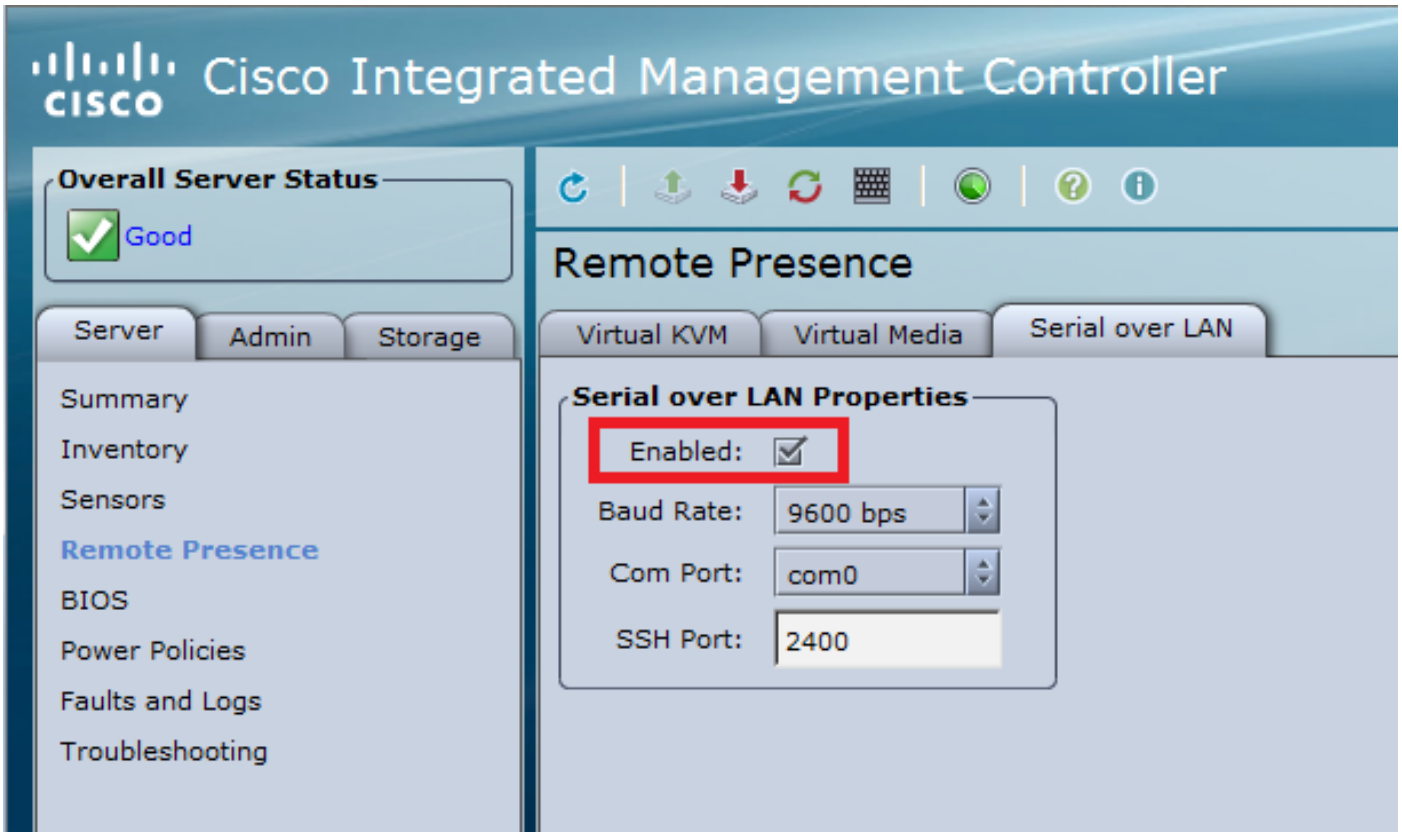
```
Set in progress : set-complete
Enabled : false          !!!! DISABLED
Force Encryption : false
Force Authentication : false
Privilege Level : USER
Character Accumulate Level (ms) : 50
Character Send Threshold : 201
Retry Count : 7
Retry Interval (ms) : 500
Volatile Bit Rate (kbps) : 9.6
Non-Volatile Bit Rate (kbps) : 9.6
Payload Channel : 14 (0x0e)
Payload Port : 623
```

3. LAN 上のイネーブル シリアル。

注: シリアルに LAN が有効になる場合すべての外部コンソールは無効です。すなわち、physical コンソール インターフェイスは COM0 にイネーブルになった場合それ desactivates physical コンソールポート SOL がシリアル接続として COM0 をデフォルトで使用するので、マッピングされ。COM0 接続をリリースしたいと思えば; COM1 と SOL を使用するか、または CIMC からの LAN 機能上のシリアルをディセーブルにすることができます。

GUI によって

- サーバの下の CIMC へのログイン、> リモート存在 > LAN 上のシリアル Enable チェックボックス、保存変更。



- CLI によって

CIMC IP アドレスに SSH セッションおよび前もって設定される資格情報とのログインを開いて下さい

```
# scope sol
/sol # set enabled yes
/sol *# set baud-rate 9600
/sol *# commit
```

```
/sol # exit
# show sol
```

```
Enabled Baud Rate(bps) Com Port SOL SSH Port
-----
yes 9600 com0 2400
```

establish に SOL SSH ポートをそのポートが付いている接続リモートで変更し、COM0 が『Console』を選択された接続として現われることを確かめることができます。さもなければコマンドでそれを変更して下さい

```
/sol *# set comport com0
```

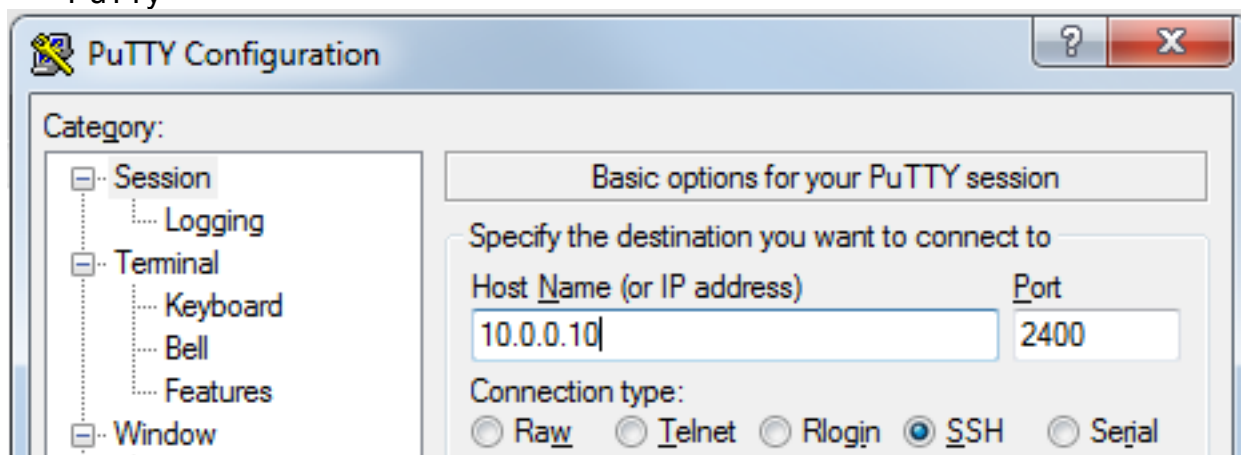
4. CIMC による WLC のコンソールへのアクセス

```
# connect host
CISCO Serial Over LAN:
Press Ctrl+x to Exit the session
```

```
User:admin
Password:*****
(Cisco Controller) >
```

CIMC 構成されたIPアドレスおよび SOL SSH ポートを使用してアクセスされるコンソールは directy またである場合もあります

- PuTTY



- ルータ

```
#ssh -p 2400 -l admin 10.0.0.10
```

- Linux/Unix

```
#ssh -p 2400 admin@10.0.0.10
```